

ラオス

Lao People's Democratic Republic



まずラオスを知ってもらう ことから

市場経済化の重要性を知る

私の所属する外国投資管理委員会 (FIMC) は、ラオスに投資する外国人投資家にライセンスを発行するなど、外国からの投資に関する業務を一括して扱う窓口になっています。

ラオスは、1986年に「新経済メカニズム」を打ち出し、市場経済化を進めてきました。本格的に外資が入り始めた88年から96年にかけて、年平均7%の経済成長を成し遂げるなど、市場経済化の重要性を、身をもって実感しています。

国の実情を知ってみたい

ラオスにとって日本は、輸出入とも5番目の貿易相手国ですが、直接投資に関しては第14位です。これは、日本からの投資を誘致するための努力を怠ってきたためだと思います。そこで今回、ラオスとしては初めて UNIDO 東京事務所のプログラムに参加することになりました。



来日する直前の1週間はタイでのプログラムが組まれました。現地ではタイおよび日本の企業や関連団体の方々にお会いしたり、工業団地を訪問したりする中で、なぜタイ政府が多くの日本企業誘致を成功させたかを理解することができました。

7月16日から8月17日までは日本に滞在し、農林業分野を中心に21の案件をプロモーションしました。案件の紹介もさることながら、今回はラオスという国の全体像、投資環境やその可能性について、まず日本のビジネス界に知っていただくことが第1の目的でした。

メコン川流域開発の中心地

ラオスは中国、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムに周囲を囲まれた内陸国ですが、国を縦断し南シナ海に注ぐメコン川流域の開発計画が、いろいろ進められています。

一例をあげると、ミャンマーから始まってタイ、ラオスを横断しベトナムのダナンに至る9号線の道路整備の一環として、タイ国境のサバナケットに日本の援助で第2メコン橋が3~4年後には完成し、経済特別区が設置される予定です。また、ASEAN縦断鉄道の整備も計画されるなど、ラオスはメコン川流域開発の中心に位置し、発展の可能性を秘めている国ともいえます。

ラオス

首都..... ヴィエンチャン
面積..... 24万km² (本州とほぼ同じ広さ)
人口..... 522万人 (2000年)
政体..... 人民民主共和国
宗教..... 仏教 (85%)
元首..... カムタイ・シーバンドーン大統領
通貨..... Kip 1ドル=9200 Kip (2001年8月)



ユネスコの世界遺産に指定された古都ルアンパバン



メコン川に沈む夕日 (首都ヴィエンチャン)

生活慣習に見る類似点

ラオスでは85%が仏教徒で、思いやりに厚く、争い事を好まないなど、日常生活の中に仏教精神が深く根差しています。5週間の滞在で多くの人々と出会う中で、日本人が文化的にとっても似ていると感じ、違和感なくお話しすることができました。

ラオスには何よりも安い労働力があり、豊富な水や鉱物など天然資源にも恵まれ、投資先として魅力にあふれていると思います。今後、日本からの投資が増えていくことを期待しています。

シアノン・ポムコン
ラオス外国投資管理委員会 投資促進・情報副部長
Ms. Sianong Phomkong
Deputy Director
Investment Promotion and Information Devison
Foreign Investment Management Cabinet